

せたがや福祉100人委員会「最後まで在宅で支えるしくみづくり」部会

シリーズ「私たちがほしい最後まで在宅」第1回シンポジウム

主催: せたがや福祉100人委員会 共催: 世田谷区 後援: / 世田谷区社会福祉事業団

区民の視点で考える

私たちが知りたい 在宅医療のいま

平成22年2月20日(土)

世田谷区民会館別館

三茶しゃれな一どホール

「オリオン」 世田谷区太子堂2-16-7

13:00 開会

13:10 基調講演

13:40 休憩

13:50 パネルディスカッション

15:30 休憩

15:40 質疑応答

16:00 閉会

基調講演: 「いま、在宅医療は・・・」

神津 仁 神津内科クリニック院長
全国在宅医療推進協会理事長

パネルディスカッション:

「どこまでできる? 在宅医療」

<司会>

長谷川 幹(桜新町リハビリテーションクリニック)
小泉 一行(関東中央病院)

<パネリスト>

- ・神津 仁 神津内科クリニック院長
全国在宅医療推進協会理事長
- ・斉藤 康洋 上田クリニック院長
- ・英 裕雄 新宿ヒロクリニック院長
全国在宅医療推進協会理事
- ・高山都規子 患者家族 かたよせ会会長

基調講演：神津 仁 先生

神津内科クリニック院長
全国在宅医療推進協会理事長

<ご略歴>

- 1950年 長野県生まれ
- 1977年 日本大学医学部卒
第一内科(血液、呼吸器)で研修、
その後、神経内科へ。同大学病院医局長、
病棟医長、教育医長を長年勤める
- 1988年 米国留学。(ペンシルバニア州、フィラデル
フィア、ハーネマン大学:フェロー。ルイジ
アナ州、ニューオルリンズ、ルイジアナ州
立大学:インストラクター)
帰国後、特定医療法人佐々木病院で内科
部長
- 1993年 神津内科クリニックを開業。現在に至る

- ・元世田谷区医師会副会長
- ・世田谷区医師会内科医会会長
- ・昭和大学客員教授
- ・NPO法人全国在宅医療推進協会理事長

シンポジスト： 齊藤 康洋 先生

上田クリニック院長

＜ご略歴＞

- 1994年 昭和大学卒業
- 1994年 昭和大学藤が丘病院 内科初期研修医
- 1996年 国立東京第二病院 総合診療科レジデント
- 1999年 国立高田病院 内科
- 2001年 国立病院東京医療センター 呼吸器科
2002年から2年間ロンドン大学プライマリケア学科修士課程に留学
- 2007年 国立病院機構東京医療センター退職
- 2007年 上田クリニック院長

＜お話の内容＞

上田クリニックは奥沢に位置し、主として世田谷区、目黒区、大田区の一部での在宅訪問診療を、平成2年から行っている在宅療養支援診療所です。前院長の上田建志先生の遺志を引き継ぎ、平成19年より齊藤康洋が院長となり、常勤医師2名、非常勤医師8名のグループ診療を基盤に在宅緩和ケアを含めた在宅医療を行っています。

今回のパネル・ディスカッションでは、上田クリニックの在宅医療の特徴・緩和ケアへの取り組み、教育としての在宅医療についてお話をさせていただき、皆様とともによりよい在宅医療を考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

シンポジスト：英 裕雄 先生

新宿ヒロクリニック院長

全国在宅医療推進協会理事

<ご略歴>

1961年生まれ

1985年 慶応義塾大学 商学部卒業

1987年 千葉大学医学部入学、1993年卒業

1993年 浦和市立病院 勤務

1995年 桃泉園 北本病院 勤務

1996年 曙橋内科クリニック 開設、院長に就任。その後、
医療法人社団 曙光会 曙橋内科クリニックに改組し
同理事長に就任。

2001年 新宿ヒロクリニック 開設、現在に至る。

主な役職

- ・NPO法人 在宅かかりつけ医を育てる会 監査役
- ・新宿区認定審査会 副会長
- ・在宅療養計画研究会 代表世話人
- ・慶應義塾大学医学部 非常勤講師
- ・横浜市立大学医学部 非常勤講師
- ・全国在宅医療推進協会 理事
- ・全国在宅療養支援診療所連絡会 世話人

勤務先 医療法人社団 三育会 新宿ヒロクリニック

東京都新宿区西新宿3-3-11 杉本ビル3F

TEL 03-5909-1231 FAX 03-5909-1233

<お話の内容>

後期高齢者や独居高齢者、さらには認知症高齢者の増加に伴い、医療と介護、生活の密接な連携が不可欠になっている。従来の病院中心型医療ではなく、かかりつけ医がこのような生活密着型医療の中心的役割を担うことを強く期待されている。しかし個々のかかりつけ医は単独開業医であることが多く、多様化している地域住民ニーズに単独で包括的に対応するには限界があることも指摘され、かかりつけ医同士の連携やかかりつけ医の機能を補完するシステム構築が不可欠となっている。本シンポジウムでは、新宿区医師会が行っている往診支援事業を中心に、かかりつけ医のサポートシステムのあり方と、地域住民の生活維持への役割について論じたい。

シンポジスト： 高山 都規子 先生

患者家族 かたよせ会会長

＜ご略歴＞

1934年東京生まれ。

丸井、白洋舎、「西友ダイヤル」消費者室などに勤務。

定年退職後、夫が多発性脳梗塞などで入退院を繰り返し、自宅介護を含め7年間介護。

その間の1997年に患者家族の集まり「かたよせ会」を発足。

2000年に夫が死去したあとも会は続き、今年で14年目を迎える。

＜お話の内容＞

1994年に夫が家の中で転倒し、腰を打って歩けなくなりました。病院に運ぶと何の検査もなく、いきなり「難病指定の筋委縮側索硬化症であと3年の命」と診断されましたが、空きベッドがなかったの
で他の病院に行くと、「多発性脳梗塞と脊椎圧迫骨折」と言われました。3か月ごとの病院探しが大変でしたが、2000年に介護保険が始まると、介護度4の認定が出て、在宅専門診療所を利用し、夫が死ぬまでお世話になりました。

12人で発足した「かたよせ会」は、現在、会員20名。毎月第2日曜の1時～3時まで「南烏山ふれあいの家」に集まり、情報交換や癒しをしています(参加費300円)。介護は100%優等生ではなく、30%くらいは自分のため。一人で抱え込まずに周囲の人の力を借りることが必要です。介護を終えた「卒業生」は、「現役」の相談に乗ったり資料を提供し、新しい出会いをつくっています。

せたがや福祉100人委員会

「最後まで在宅で支えるしくみづくり部会」からのお知らせ

【次回以降の予定】

第1回シンポジウムはいかがでしたでしょうか？

今後も定期的に下記のテーマでシンポジウムを開催していく予定です。

次回も、どうぞご参加下さい。

第2回：「医療と介護の連携」

2010年5月29日（土） 成城ホール 13:00～

第3回：「緩和ケア～看取り」

2010年7月後半予定

第4回：「自分のいのちを自分で決めるために」

2010年10月予定